

今月の言葉、日本ではこのままで使うことは余りありませんね。同じ意味の、「一飯之報（一飯の報い）」とか「一飯之恩」が多く使われています。

・>・>・>・>・>・

漢王朝が成立した時に功労のあった將軍韓信は、小さい時、家が貧しくて食べるものが無い時、お腹を空かせて、仕方なく魚釣りに行くのでした。

韓信が魚を釣りに行く川辺に一人のおばあさんがいました。おばあさんは韓信がお腹を空かせているのを見て、可愛そうに思い、自分の食事を分けてあげました。韓信はとても有難く思い、おばあさんに言いました。

「おばあさん、ご親切ありがとうございます。このご恩はいつかきつとおかえししますから」

と言うと、おばあさんはひどく怒って言いました。

「わたしは、あんたに恩を返してほしくてご飯を分けてあげたんじゃないよ！」

漢王朝が成立して、韓信は齊王に封じられました。彼は従者に命じて、沢山の美味しい食べ物を、あのおばあさんに届けさせ、そればかりでなく黄金千金を贈りました。

これが、「一飯千金」と言い伝えられたお話です。

・>・>・>・>・>・

言葉の意味：他人から恩恵を受けたら、決して忘れずに、自分の能力が上がった時は必ず恩恵を受けた人にしっかりと恩返しをすべきである、という意味。

使い方：よその人から恩義をうでたら、必ずお返しをしなければいけない、韓信の「一飯千金」のお話のように。

・>・>・>・>・>・

前月のこのコラムで、越王勾踐のお話をした時、勾踐の名補佐役との誉れが高い宰相・范蠡の言葉を、漢の將軍・韓信が引用したことを付記しましたが、今月は偶然、その韓信のお話です。

韓信は漢王朝成立の時期に、劉邦を助けて大活躍した優れた武將で、「**國士無双**（天下に二人とない勇者）」と言われた人です。若い時は、このお話にあるように、食べるものもなく苦勞した

ようです。それでも「世に出る」という野心は早くから持っている、遊び仲間から持っている劍のことでからかわれ、「勇氣があるなら、その劍でおれを切ってみろ。臆病でそれが出来ないなら俺の股を潜れ」と言われました。

韓信は、「ここで彼を斬ったところで何の足しにもならない。却って仇と狙われるのがおちだ」と考え、股を潜りました。

これが有名な「韓信の股潜り」というお話ですね。

初め韓信は項羽に仕えましたが、厚遇を得られず、劉邦の陣へ鞍替えしました。そこでも初めは認められませんでした。推薦する人がいて活躍の場を与えられ、漢王朝成立のために大いに働きました。

項羽が亡くなり、楚王に子が無かったので、劉邦は韓信を楚王に封じました。楚は韓信の生まれ故郷なので、臣下に命じて、あのご飯を食べさせてくれた老婆を探させ、沢山の食糧を届けさせ、千金を与えて昔の恩義に報いました。それで人々は「一飯千金」と言うようになりました。

この後韓信は、昔股を潜らされた元の仲間を探し出し、「あの時忍耐することを教えられ、後々大變役に立った。礼を言いたい」と言い、彼にそれなりの役職を与えました。



挿絵 満柏氏